

技術の力で挑む、海運の未来

株式会社商船三井 液化ガス技術ユニット

田井 友理恵

1. はじめに

私は大阪大学工学部および大学院にて、船舶海洋工学を専攻し、2022年に株式会社商船三井へ入社いたしました。まずは、これまでご指導いただいた先生方に心より感謝申し上げます。商船三井は、世界中の貨物を輸送する船を運航する海運会社であり、国際物流を支える重要な役割を担っています。海運会社は一見、「営業の会社」と思われるがちですが、近年の目まぐるしい変化の中ではグローバルな視点と技術力が求められ、理系出身者が活躍できるフィールドは非常に広く、私自身も日々その可能性を実感しています。

2. 現在の業務について

私は現在、LNG運搬船の新規発注や船隊整備に関連する業務に携わっています。LNGは都市ガスや火力発電などに広く利用されており、人々の生活を支える非常に重要なエネルギー源で、その輸送を支える現在の業務は社会インフラを支える責任ある仕事として、大きなやりがいを感じています。LNG船は、毎年多くの隻数の船が竣工し、現在では技術が確立されている分野ですが、環境負荷低減について叫ばれる近年、GHG（温室効果ガス）排出削減が求められ、より一層技術的な挑戦および評価の必要性が加速しています。

商船三井では、環境対応技術の一つとして「ウインドチャレンジャー」と呼ばれる帆を船の上に搭載し、風の力で船舶の推進力を補助するシステムの開発を進めています。これは、燃料消費量を削減することを目的とした新しい取り組みであり、私が担当しているLNG船にもこの装置を搭載するための技術的検討や開発が進められています。現在、自身の業務としても造船所と連携しながら、最適なLNG船の設計について日々検討を行っています。帆は50mほどの大きさであり、安全性と効果を両立させるには様々な工夫が必要であるため、社内の多くのチームと協働し、運航経験に基づく安全性の知見の反映や、プロジェクト全体の採算性の確認などを行っています。入社して二年目、まだまだ知識の乏しさを実感していますが、このような前例のないプロジェクトに携わり、多くの人と共に働くことは非常に面白く刺激的な挑戦だと感じています。



ウインドチャレンジャー搭載
LNG船イメージ図

3. 今後の抱負

海運業界は、技術・環境・市場のすべてにおいて変化のスピードが非常に速く、自ら学び続けなければついていけない世界だと感じています。このような絶えず変化し続ける環境に対して、商船三井が新たな技術に果敢に挑戦し続けている姿勢、そしてその中で自分自身もチャレンジできることに、大きな誇りとやりがいを感じています。近年では理系社員の活躍の幅が大きく広がり、造船所と協議し仕込む船の品質保証を行うのみでなく、顧客への技術説明、さらには新規事業の開発など、技術的な知識と論理的思考が求められる場面が多くあります。理系の強みは、理論に基づいたストーリー構築と、感情論ではなく論理的に人を納得させる説明ができるこだと感じています。変化の激しい海運業界では、正解のない課題に向き合う場面も増えていくでしょう。そうした中でも様々な意見や新技術、業界動向を敏感に察知し、学ぶ姿勢を持ち続け自分なりに分析・論理立ててプロジェクトを成功に導く人財になりたいと考えています。

(工学研究科 地球総合工学専攻 2022年卒)